

シングルレバー混合水栓

SF-WM420型 SF-WL420型
JF-AF442型 JF-AG442型

工事店様へのお願い

貴店名ならびに据付引渡し日を保証書にご記入の上、お客さまに必ずお渡しください。また、定期的に交換が必要な部品があることをお客さまに必ずお伝えください。

商品の機能が100%発揮されるよう、本説明書の内容を十分ご理解のうえ正しく施工してください。
なお施工完了後、この施工説明書を同梱の「取扱説明書の袋」に入れてお客さまにお渡しください。

1. 施工の前に

安全上のご注意

- 施工前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく施工してください。
- ここに示した注意事項は状況によって重大な結果に結びつく可能性があります。
- いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 施工完了後、正常に作動することを確認してください。お客さまに引き渡すときは、取扱説明書にそって使用方法、お手入れの仕方を説明してください。
- この施工説明書は、取扱説明書と共にお客さまで保管頂くように依頼してください。

用語および記号の説明

注意 … 「取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物理的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。」

⚠ … 「注意しなさい!」(上記の『注意』と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項をお守りください。)

⊘ … 「してはいけません!」(一般的な禁止記号です。)

(禁止)

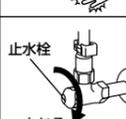
⊘ … 「分解してはいけません!」

(分解禁止)

ⓘ … 「指示通りにしなさい!」(一般的な行動指示記号です。)

(指示)

⚠ 注意

⊘ (禁止)	水道水及び飲用可能な井戸水以外は使用しないでください。 ※商品の内部腐食により、漏水の原因となります。 ※飲用可能な井戸水とは、水道法に定められた飲料水の水質基準に適合する水をいいます。	
⊘ (禁止)	給水配管と給湯配管を逆に配管しないでください。 ※水を出そうとしても、湯が出てヤケドをする恐れがあります。	
⊘ (禁止)	給湯器の温度設定は85℃以上で使用しないでください。 ※水栓が破損し、ヤケドや家財等を濡らす恐れがあります。	
⊘ (禁止)	衝撃を与えたり、もたれかかったりしないでください。 ※破損してケガをしたり、漏水や故障の原因となります。	
⊘ (分解禁止)	修理技術者以外の人は水栓を分解したり、修理したりしないでください。 ※ケガをしたり、故障・破損の恐れがあります。	
ⓘ (指示)	給水圧力は必ず給湯圧力以上にしてください。 ※正常な調節ができなくなり、ヤケドをする恐れがあります。	
ⓘ (指示)	ヤケドの恐れがないところまで水圧変動を押えた配管設備にしてください。 ※他所の水栓の使用などにより水圧変動が起こり、湯の使用中に湯温が急上昇し、ヤケドをする恐れがあります。	
ⓘ (指示)	フレキホースの差し直しやストレーナの掃除をする際は必ず湯側水側の両方の止水栓を閉じてから行ってください。 ※湯・水が噴出してヤケドをしたり、家財等を濡らす財産損害発生のおそれがあります。	
⊘ (禁止)	【寒冷地用の場合】 水抜栓は水抜き以外の目的で開けないでください。 ※ケガをしたり、故障・破損の恐れがあります。	
ⓘ (指示)	【寒冷地用の場合】 お客さまに引き渡す前に凍結が予想される場合は、水を抜いておいてください。 寒冷地用の水抜方法は、取扱説明書を参照ください。 ※凍結破損で漏水し、家財等を濡らす財産損害発生のおそれがあります。	

本製品の仕様と条件

給湯器設定温度	85℃以下	使用可能水質	水道水および飲用可能な井戸水(※1)
使用環境温度	【一般地用】	0~40℃	但し、内部の水を凍結させないでください。
	【寒冷地用】	-20~40℃	
給水給湯接続	G 1/2 (PF1/2) 呼び径13mm		
圧力条件	0.05MPa(流動圧)~0.75MPa(静水圧)		
	給水圧力≧給湯圧力(※2)		
取付条件	水栓取付穴:φ35~φ39mm、カウンター厚:6~30mm		

- ※1: 飲用可能な井戸水とは、水道法に定められた飲料水の水質基準に適合する水をいう。
※2: 給湯圧力が給水圧力よりも高い場合、正常な調節ができなくなり、ヤケドをする恐れがあります。

ガス給湯器(比例制御式:16号相当)と組み合わせる場合の給水圧力

	SF-WM型、SF-WL型	JF-AF型、JF-AG型
最低必要圧力	A+0.08MPa(流動圧)	A+0.10MPa(流動圧): 給湯器設定温度 75℃ A+0.08MPa(流動圧): 給湯器設定温度 60℃ A+0.05MPa(流動圧): 給湯器設定温度 42℃
最高圧力	0.75MPa(静水圧)	

Aはガス給湯器の最低作動圧力です。

測定条件は次の通りです。

- レバーハンドルは全開。
- 給水温度5℃、吐出温度42℃
- 給水圧力はガス給湯器直前における流動圧です。
- ガス給湯器の設定温度は最高温度です。

貯湯式給湯器と組み合わせる場合の給水圧力

最低必要圧力	0.05MPa(流動圧)
最高圧力	0.75MPa(静水圧)

- 給水圧力と給湯圧力の差を小さくしてください。温度調節が容易になり使いやすくなります。
- 給湯圧力は水栓直前における流動圧です。

その他の条件

- 給水圧力が0.75MPaを超える場合は、市販の減圧弁で適正圧力(0.20~0.34MPa)に減圧してください。
- 給湯に蒸気は使用できません。
- 不意の出湯によるヤケド防止のため、給湯器の設定温度は60℃以下をおすすめします。

施工前のご注意

取付けに必要な工具類

- 水栓本体の取付けにはプラスドライバー、スパナ(呼び8,24)が必要です。

止水栓と点検口を設けてください。

- 取付後の流量調節及び保守点検のために、必ず止水栓(別売)と点検口を設けてください。
- 使い勝手や性能発揮のために、流量を調節してください。特に水圧が高い場合など、流量が調節されていないと漏水・破損の恐れがあります。

補強材を使う場合

- カウンター裏面に補強材を使う場合は、木製のボードを使用してください。珪酸カルシウム板は使わないでください。本体が正しく固定できないことがあります。やむをえない事情で珪酸カルシウム板を使用する場合は、別売のA-3811を使用して取り付けてください。

その他の注意点

- 給水は上水道に接続してください。
※温泉水など異物を多く含む水には使用できません。
- 給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確認してください。
※逆配管では表示通りに湯が出ません。
- 給湯配管はできるだけ短くし、必ず保護材を巻いてください。
- 商品の表面には、直接工具を掛けないでください。
※工具を掛ける場合には、必ず商品に布等をあてて保護してください。
- 開梱・取付けの際には商品の表面にキズを付けないように十分に注意してください。
- 必ず配管中の異物を完全に洗い流してください。

施工完了図

※品番によっては、図と現品の形状が一部異なります。

SF-WM420型
SF-WL420型

JF-AF442型
JF-AG442型

	中心振分けの場合	片側偏芯の場合
A: 取付可能穴径	φ37±2mm	
B: 取付可能カウンター厚さ	6~30mm	
C: 裏面取付作業必要スペース寸法	図1に示す範囲以内	
D: 給水・給湯止水栓芯寸法	200±10mm	80~100±10mm
E: 水栓取付面から給水・給湯用止水栓中心までの寸法	400±10mm	360±10mm
F: 水栓中心から給水・給湯の止水栓接続中心までの寸法	0~50mm	
G: 止水栓の標準寸法	30~35mm	
H: 水栓中心から給水・給湯芯々の中心までの寸法	0mm	120~150mm

図1. 裏面取付作業必要スペース寸法

部品の確認

【SF-WM型、SF-WL型の場合】

給湯ホース
給水ホース

逆止弁ソケット×2

【寒冷地用の場合】
ソケット×2

上面施工金具

【JF-AF型、JF-AG型の場合】

浄水スパウト

給湯ホース
給水ホース

逆止弁ソケット×2

【寒冷地用の場合】
ソケット×2

上面施工金具

袋をあけず浄水スパウトに付けたままお客さまにお渡しください。

施工手順

- ① 上面施工金具の取付け
- ② 水栓本体の取付け
- ③ ソケットと止水栓の取付け
- ④ 給水・給湯ホースの接続

- ① 通水確認
- ② 泡沫口、ストレーナの掃除
- ③ 流量の調節

2. 施工方法

以下の手順通り、正しく取り付けてください。

1. 上面施工金具の取付け

黒く塗った部分

平面図

無着色ボルト

前面

白着色ボルト

注意

上面施工金具は**向きに注意**して、正しく取り付けてください。
※正しく取り付けないと水栓本体の固定強度が低下するなど、不具合の原因となります。

1. 無着色のボルトをゆるめ、ホルダーを外す。
2. ホルダーを水栓取付穴に挿入する。

ゆるめる

外す

無着色ボルト

白着色ボルト

ホルダー

水栓取付穴

ホルダー

ポイント

- 無着色ボルトは引っかかりないように少し引っぱり上げておく。
- ホルダーがカウンター裏面の障害物に引っかかり、正しい位置に取付けできない場合は、白着色ボルトを数回左右に回してください。

3. アダプターの黒く塗った部分が後方を向くように位置決めをする。

アダプター

黒色

ねじ穴

前面

アダプターガイド

平面図

前面

ガイド

確認

4本のガイドが取付穴に確実に入っていること。

4. アダプターを手で押さえ、白着色ボルトを1~2回転締める。

アダプター

白着色ボルト

前面

ホルダーが共回りしてカチッと合まる

平面図

白着色ボルト

注意

ゆっくり回してください。
※高速回転はしないでください。
正しく施工できなくなる恐れがあります。

5. アダプターを手で押さえ、白着色ボルトをしっかりと締める。

締める

無着色ボルトが上がってくる

無着色ボルト

白着色ボルト

前面

平面図

白着色ボルト

6. 無着色ボルトをしっかりと締める。

締める

無着色ボルト

前面

平面図

前面

ポイント

各ボルトを交互に締め付け、締め付力が均等になるようにする。

7. スパナでそれぞれのボルトを約1/2回転増締めする。

スパナ(対辺8)

注意

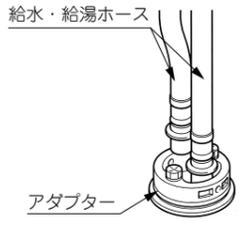
締め付けすぎないでください。

ポイント

アダプターのぐらつきがないこと。

2 水栓本体の取付け

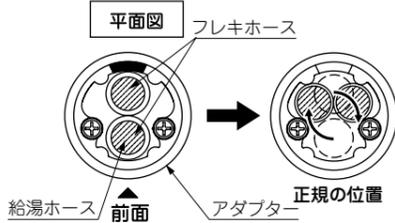
1. 給水・給湯ホースの先端を横並びにし、さらに上下にずらしてアダプターに挿入する。



注意

- 先端のキャップはそれぞれ接続する直前まで外さないでください。
※リングに傷がついたり、ゴミがかみ込むことで、漏水の原因になります。
- 横並びにしただけでは、給水・給湯ホースの先端がアダプターに干渉し挿入できません。

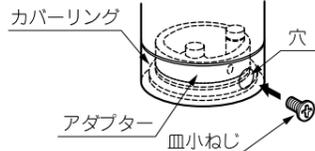
2. フレキホース先端がアダプターとホルダーを通過したら、フレキホースを正規の位置に回転させる。



注意

水栓全体が回転可能となる前に無理に回さないでください。
※給水・給湯管等が破損し、漏水の原因となります。正しく施工できなくなる恐れがあります。

3. カバーリングの穴、アダプターの穴の全てをそろえて皿小ねじで固定する。



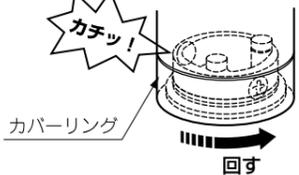
注意

インパクトドライバーを使用しないでください。

確認

水栓本体にぐらつきがないこと。

4. カバーリングを180°回転させ、穴を後ろに回す。



ポイント

カチッと音がするまで回す。

〔水栓本体の取り外し方〕

1. カバーリング背面のボタンを押しながらカバーリングを180°回す。
2. カバーリングの穴の位置を皿小ねじに合わせ、皿小ねじを外し、本体を抜く。

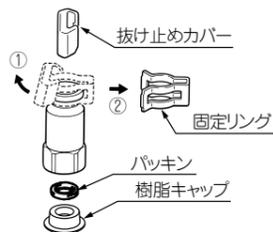


3 ソケットと止水栓の接続

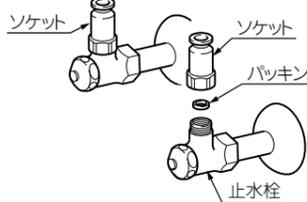
1. 抜け止めカバー、固定リング、樹脂キャップを取り外す。

注意

パッキンの紛失に注意してください。
※漏水の原因となります。

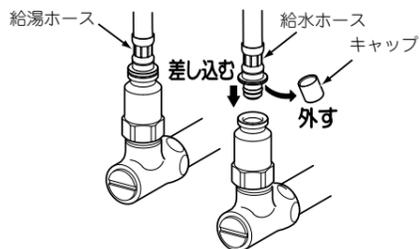


2. ソケットを止水栓に固定する。



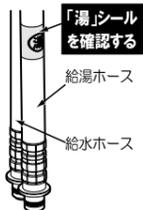
4 給水・給湯ホースの接続

1. 給水・給湯ホースをソケットに差し込む。



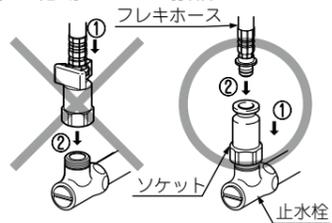
注意

給水・給湯ホースの差し間違えに注意してください。



注意

必ずソケットを止水栓に固定してから給水・給湯ホースを接続してください。



注意

Oリングに傷をつけたりゴミかみがないよう注意してください。
※漏水の原因となります。

2. 固定リングと抜け止めカバーをはめ込む。

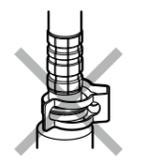
注意

ホースを曲げる場合は、曲げ半径30mm以上確保してください。
※漏水の原因となります。



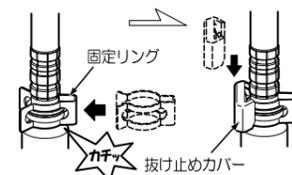
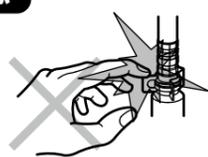
注意

はめ損ねに注意してください。
※固定リングが外れると漏水の原因になるので、必ずしっかりとめ込んでください。



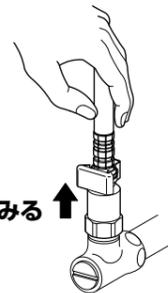
注意

抜け止めカバーははめたままにしてください。
※直接固定リングに触れるとケガをする恐れがあります。



確認

確実に接続されていること。
※接続後に固定リングを回し、確実にはまっていることを確認してください。
※給水・給湯ホースを上引き、確実に接続されていることを確認してください。



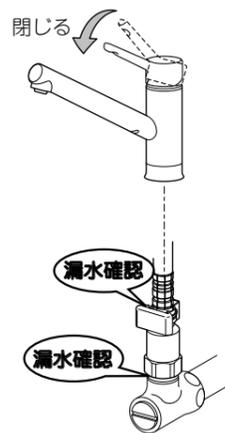
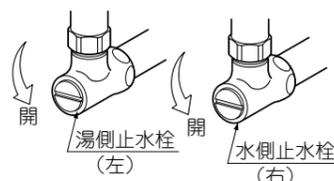
3. 施工後の調節

以下の手順通り正しく調節してください。

1 通水確認

通水確認を以下の要領で行ってください。

1. レバーハンドルが閉じていることを確認し、給水・給湯の止水栓を開く。
3. レバーハンドルを閉じ、接続部からの漏水がないか確認する。

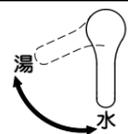


2. 水側・湯側それぞれの位置でレバーハンドルを開け、通水確認する。



注意

高温に注意してください。
※レバーが湯側になっていると不意に高温の湯が出てヤケドをする恐れがあります。



2 泡沫口・ストレーナの掃除

初期通水のゴミを取り除くため、以下の要領で、泡沫口、ストレーナの掃除を行ってください。

SF-WM型、SF-WL型の場合

1. 泡沫口の紛失を防ぐため、排水口を布等でおおう。
2. 泡沫口の溝にメダルなどを当てて取り外し、水で掃除する。
3. 泡沫口の溝にメダルなどを当てて、右に止まるまで回し取り付ける。

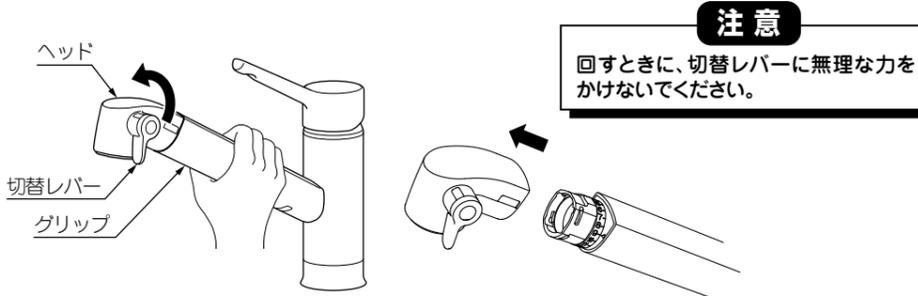


注意

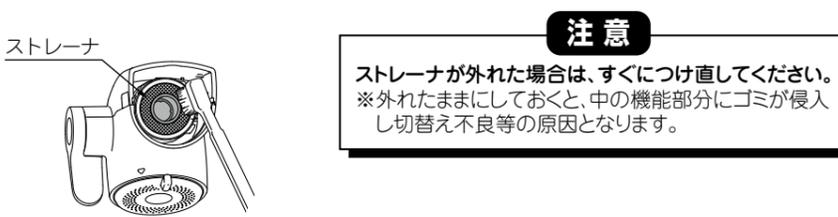
泡沫口のパッキンに傷をつけないように注意してください。
※漏水の原因となります。

JF-AF型、JF-AG型の場合

1. グリップを持って、ヘッドを左に止まるまで回し、引き抜く。



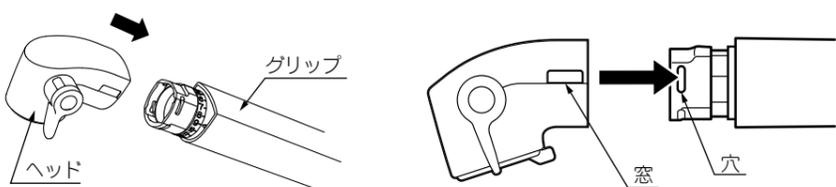
2. ストレーナについたゴミを、洗剤を使わず、歯ブラシ等でこすり落とす。



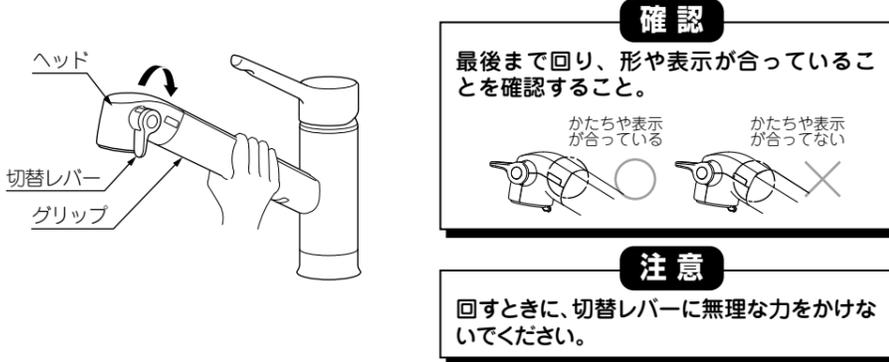
3. ボールなどの器に清潔な水道水をため、ストレーナが沈む程度に浸けて、軽くすすぐ。



4. 表面についた水滴をふき取り、ヘッドをグリップに差し込む。



5. グリップを持って、ヘッドを右に止まるまで回す。



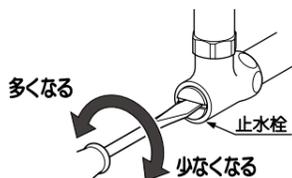
3 流量の調整

SF-WM型、SF-WL型の場合

注意
水圧が0.20MPaを超える場合は、水側の流量を調節してください。
※水栓の機能が十分に発揮されません。

1. レバーハンドルを全開にする。

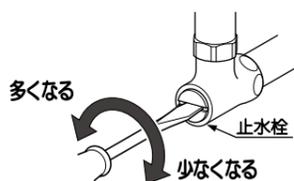
2. 湯と水の流量が同じになるように、水側の流量調節栓を調節する。



JF-AF型、JF-AG型の場合

水圧が高い場合は、レバーハンドルを全開にしたときのシャワーの流量が湯と水でそれぞれ8L/min（1リットルの容器をいっぱいにするのに約9秒）以下になるよう止水栓で流量調節をしてください。

ポイント
以下の場合は、水圧が高く過剰流量になっていることが考えられます。
(1) 浄水とシャワーがうまく切り替わらない。
(2) 切替レバーの表示と異なる箇所から水が出る。



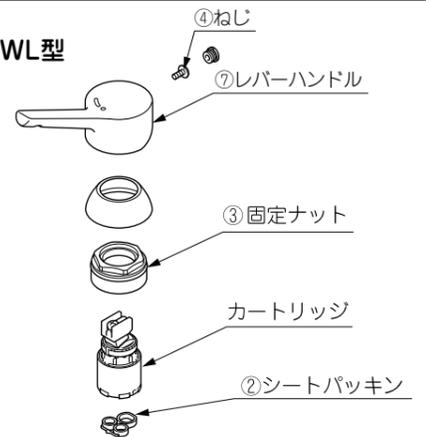
4. 引渡し前の確認

引渡前および故障時の点検は以下の要領で行ってください。

※この商品は、ウォーターハンマー低減機構を採用しています。レバーハンドルを急に下げると重く感じるがありますが、故障ではありません。

現象	点検内容	点検箇所	処置
流量が少ない	圧力は十分か？	—	「使用条件」の項参照。
	配管途中に大きな抵抗はないか？	—	抵抗となる障害物を取り除く。
	止水栓は十分開いているか？	—	止水栓を十分開く。
	ゴミ詰まりはないか？	① ⑥	ゴミ等を水で洗い流す。
水が止まらない	ゴミかみはないか？	②	ゴミ等を水で洗い流す。
	キズはないか？	②	キズがあれば部品を交換する。
	ゆるみはないか？	③	固定ナットを締める。締まるとレバーハンドルが重くなるのでご注意ください。
ハンドルが右側に回らない	ハンドルの操作位置は正しいか？	⑦	エコハンドル仕様のため、レバー操作範囲が従来のシングルレバーと異なります。(施工完了図参照)
切替レバーの表示と異なる箇所からも水が出る。			
浄水がコップから飛び出す。(水はねが多い)	流量調節はよいか？		「流量の調節」の項参照。
使用中、レバーハンドルが自然に動く。			
希望の温度が得られない	ハンドルの操作位置は正しいか？	④	エコハンドル仕様のため、レバー操作範囲が従来のシングルレバーと異なります。(施工完了図参照)
	圧力は十分か？		「本製品の仕様と条件」の項参照。
	流量調節はよいか？		「流量の調節」の項参照。
水栓本体がガタつく	ゆるみはないか？	⑤	ねじをしっかり締める。
ハンドルがガタつく	ゆるみはないか？	④	ねじをしっかり締める。

SF-WM型、SF-WL型

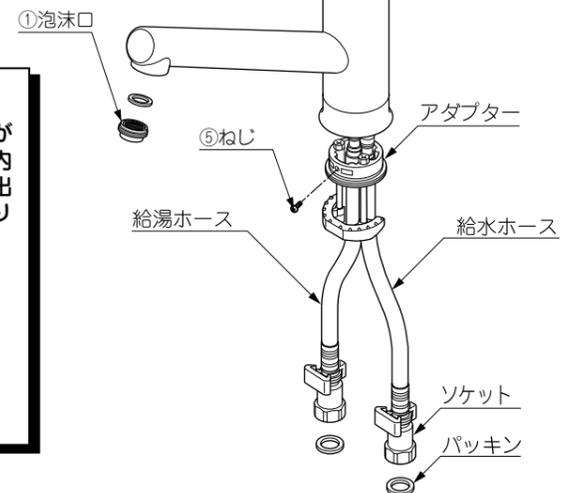


JF-AF型、JF-AG型の場合



ポイント

故障ではありません。水を止めた後に少しの間水が垂れますが、切替ユニット内部に溜まった少量の水が排出されるため、故障ではありません。



4. 引渡し (JF-AF型、JF-AG型の場合)

水栓に浄水カートリッジの入った袋を付けたまま、お客さまに引き渡してください。

